

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-71C	12-091	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Intake of alcohol may modify the risk for non-melanoma skin cancer: results of a large Danish prospective cohort study. アルコールの摂取は、非黒色腫皮膚癌のリスクを変更するかもしれない:デンマークの大規模前向きコホート研究		
執筆者		
Jensen A, Birch-Johansen F, Olesen AB, Christensen J, Tjønneland A, Kjær SK.		
掲載誌		
J Invest Dermatol. 2012 Dec;132(12):2718-26.		
キーワード		
基底細胞がん, 扁平上皮がん, アルコール摂取, 前向きコホート研究		
要旨		
目的: アルコールは、非黒色腫皮膚癌に決定的に関連するとの報告はまだない。そこで、アルコール摂取は、基底細胞がんと扁平上皮がんのリスクに影響するかについて検討した。		
方法: 食事、癌と健康について検討したデンマークの前向き大規模コホートの 54,766 人を対象とした。統計解析は Cox 比例ハザードモデルを用いて算出し、すべてのハザード比は共変量で調整したが、紫外線の曝露については調整できなかったため、紫外線感受性に関連した項目（日光感受性、しみの程度、母班の数）で調整した。		
結果: 追跡期間 11.4 年（中央値）の間に、2,409 例の基底細胞がん、198 例の扁平上皮がんを認めた。現在の飲酒量は、基底細胞がんリスクに関連していなかったが、アルコールの種類別に分析するとワイン (HR:1.11, 95%信頼区間 (CI);1.02-1.08)、アルコール摂取量 10g/日)と蒸留酒 (HR:1.11, 95%CI;1.02-1.21) 摂取で基底細胞がんリスクが上昇し、ビール摂取でリスクが減少した (HR:0.97, 95%CI;0.93-1.00)。アルコール摂取量と扁平上皮がんの間に確証的な関連は認めなかったが、おそらく症例数が少なかったためと考えられる。		
結論: 本研究により、アルコール摂取は、基底細胞がんのリスクを上昇させるが、その関連は、アルコールの種類に依存することが示唆された。		